

令和3年度 愛知県医療療育総合センター県民講座の開催について テーマ 自閉スペクトラム症の特性を知り、発達をサポートする

令和4年1月22日から2月22日の間、県民講座をオンライン開催しました。

医療療育総合センターの県民講座は心身障害者コロニーの時代から、障害を有する方やそのご家族、サポートに携わる方々を対象に、年に一度テーマを選んで障害や症状に関して科学的側面、臨床的な留意事項やトレンド、支援のノウハウに関する知識などの情報を講演形式で提供してきました。一昨年度は開催を計画するもコロナ禍で中止せざるをえなかったため、今回は2年ぶりの開催となりました。昨年度も落ち着く気配のないコロナ禍のために集会方式での開催は断念し、1ヶ月間オンデマンドでの動画配信の形式で開催しました。昨年度は県民講座18年間の歴史の中で3回目となる「自閉スペクトラム症」をテーマとし、吉川中央病院児童精神科部長、乾発達障害研究所障害システム研究部長、小松中央病院リハビリテーション科長の3名の講師にスライド動画をご準備いただきました。



吉川講師は「自閉スペクトラム症支援の新しい潮流」と題し、増加している女性の自閉症者の話題など最近の動向を交えたトピックスをわかりやすく紹介しました。乾講師は「自閉スペクトラム症と脳のはたらき」と題し、脳機能の観点から見た自閉スペクトラム症の特性に関する最新の科学的知見を紹介しました。小松講師は「自閉スペクトラム症と作業療法」と題し、感覚統合療法など豊富な経験に基づいたリハビリテーションの実情を紹介しました。

今回初めて試みたオンライン開催でしたが、特に大きなトラブルもなく無事に配信が終了し安堵しています。一方でオンライン開催のメリットとして、これまで会場の収容人数で制約を受けていた参加者数が915人に達しました。これは過去の実開催が参加者150名程度だったことを考えると大幅な増加と言えます。さらに吉川講師の1,435視聴回数を筆頭に他の二つの講演も登録者ほぼ全員により視聴された計算です。ただし302回しか視聴されなかった閉会挨拶者としては少し切ないところです。

参加者にお願したアンケートには205名からのご回答があり、今後の県民講座実施への糧となる貴重なご意見をいただきました。この中ではやはり実開催に比べて参加が容易で、何回も講演の視聴ができるオンライン開催を歓迎する声が多く見られました。一方で実開催を求める意見もありましたが、今後のウィズコロナ/ポストコロナ時代での県民講座の実施形態を考える上で役立つデータとなりました。満足度についても「参考になった」81%、「少し参考になった」19%と、概ね皆さんにご満足いただけた様です。アンケートはさらに詳細な項目からなり、このアンケートにお答えいただいた皆様の期待に応えることができるよう、今後の県民講座開催にご意見を反映させていきたいと思っております。

医療療育総合センター 発達障害研究所 所長 中山 敦雄

自閉スペクトラム症の捉え方の変化

- 認知の障害から動機の問題へ
- 「カモフラージュ」
- 女性の自閉スペクトラム症
- 当事者からの発信
- 神経多様性（ニューロダイバーシティ）
- 「余暇活動」への注目

